

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0470900309		
法人名	有限会社サンヨー		
事業所名	グループホーム貞山みよりの家 ユニット:海		
所在地	多賀城市大代3丁目7-72		
自己評価作成日	平成31年1月30日	評価結果市町村受理日	平成31年2月6日

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	平成31年2月21日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の交流を大切に、思いやりと親切をモットーに、いつでも目配りや気配り、心配りを怠らず相手の話を聞き笑顔でサポート致します。又日本の歳時と折々の行事を大切に利用者様が楽しんでいただけるよう支援しています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2004年12月に開所した「グループホーム貞山みよりの家」は、1階が「海」2階が「空」の2ユニットの事業所である。多賀城市大代地区の高台にあり、駐在所が隣接している。駐在所署員とは日常的にも交流があり、運営推進会議への出席や見守りなどの連携体制が構築されている。毎月第3月曜日に開催している「おおしろカフェ」には、地域から10人程の参加があり利用者と一緒にクリスマスリースなど、季節に合わせた作品作りなどお茶会をしており、利用者は楽しみにしている。行事では、恵方巻づくりなど利用者と職員が楽しみながら一緒に取り組んでいる。大きな1つのテーブルで職員も一緒に食事しており、後片付けも一緒に行っている。毎月発行される「貞山みよりの家便り」は、行事やボランティア活動が掲載され、事業所の日常の取り組みなど詳しく知ることができる。玄関ホールや居間には季節の飾り物や行事の写真が掲示されている。スタッフの心得にある「目配り・気配り・心配り」の様子が随所に見られる生活状況が確認できた。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果（事業所名 GH貞山みよりの家 ）「ユニット名 海 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況  次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝夕の送りにて、理念について話し合い、職員と管理者が理念について共有し、実践が理念に基づいたものになるように日常的に取り組んでいるかを問うています。	理念の「安全と安心で思いやりのある穏やかな生活を支える」は、朝夕の申し送りで確認し合っている。また、リビングに掲示しており、職員の名札の裏側に印刷し常に意識しながらケアに活かせるように努めている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、町内の行事にも積極的に参加し、月一で開催しているカフェにも気軽に行き来できるようにしている。ホーム便り、カフェ便りも地域の方々に配布している。	町内会に加入し、敬老会・新年会・総会に参加している。毎月1回「おおしろカフェ」を開催し、地域住民の参加がある。「ホーム便り」と「カフェ便り」を地域に配布し、事業所の様子を知らせている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者は、事業所での実践内容を踏まえ様々な研修、会合に関わりながら認知症ケアの啓発に努めている。事業者や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市の職員、地域包括職員、町内会長、民生委員、警察署、等が参加し年6回開催している、利用者やサービスの実際、評価の取り組み状況について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	年6回、市職員、地域包括職員、町内会長、民生委員、駐在所職員が参加し開催している。利用者の状況報告のほか、消防署職員による講習なども取り入れている。隣が駐在所で、常に連携できている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の職員の方が運営推進会議に出席していただいたり、ホーム便りを届けたり行き来する機会をつくり、サービスの質の向上に取り組んでいる。	市の職員が運営推進会議に参加しており、事業所の状況を随時報告している。また、生活保護申請についても連携している。市の窓口で「ホーム便り」を置いてもらい、情報発信に繋げている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者の権利擁護や身体拘束に関する勉強会を事業所の中で実施し、職員の共有認識をはかっている。ミーティングや日々の申し送り時等で、その日のケアを振り返り、自覚しない身体拘束が行われていないか等を点検している。	身体拘束をしないケアについて、ケアを振り返りながら研修を重ねている。日常的に意識し、特に言葉遣いに配慮した支援に努め、朝夕の申し送りでも情報共有を図り、振り返っている。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティング等を実践し、高齢者虐待防止に関する理解浸透や遵守に向けた取り組みを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会やミーティング等を実践し、高齢者虐待防止に関する理解浸透や遵守に向けた取り組みを行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時において、利用料金や、事業所のケアに関する考え方や取り組み、起こりうるリスク等について丁寧に説明し、同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会に合わせてクリスマス会を開催し、意見や要望を聞き家族の意見や要望は、職員間で共有し、運営に活かしている。来訪時にも声をかけ、利用者の状況や家族について話し合っている。	家族会を開催し、意見・要望を聞いている。常に、家族が来訪した際も利用者の様子を報告し、情報共有に努めている。把握した意見・要望は、事業運営や利用者のケアに活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング、勉強会で意見を聞くようにしている。又日ごろからコミュニケーションを図るように心かけ問いかけたり、聞きだしたりするようにしている。	月1回、ミーティングで職員から意見・要望を聞いている。管理者は日常的にもコミュニケーションを図りながら、職員から要望を汲み取るよう努めている。介護に関する意見が多く出されており、ミーティングなどで検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、経営者に対し現場の状況について詳しく報告を行っている。又経営者の指示を仰ぎ良い環境作り職員が落ち着いて働けるよう環境づくりに務めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日常的に学ぶことを推進している。ミーティングの時間を利用し勉強会を実施している。研修内容は、全職員が共有出来るように閲覧している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協議会の研修や地域の連携の会などに出席し、質の向上に励んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状態を把握するようつとめ、又利用者によっては、通所で利用してもらい本人の不安や要望を理解するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の求めているものを理解し、これまでの経緯についてゆっくりと話しを聞き次の段階の相談につなげている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人やご家族の思い、状況等を確認し、改善に向けた支援の提案、相談を繰り返す中で信頼関係を築きながら必要なサービスにつなげるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の様子や職員の思いをきめ細かく伝えることで、家族と職員の思いが徐々に重なり、本人を支えていくための協力関係が築けることが多くなっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人やご家族の思いや根本にある苦しみ、不安、喜びなどを知ること努め、暮らしの中で分かち合い、共に支え合える関係づくりに留意している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、友人等の訪問時は、ゆっくり過ごせるように環境作りをしている。昔から利用している美容院に行き続ける利用者や、お正月、お盆のお参り等利用者一人ひとりの生活習慣を尊重している。	利用者の以前の生活習慣が、継続できるよう支援している。馴染みの美容院に職員と一緒に出かける利用者もいる。家族が来訪しやすいよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話を聞いたり、相談に乗ったり、みんな楽しく過ごす時間や気の合う同士で過ごせる場面づくりをするなど、利用者同士の関係がうまくいくように、職員が調整役となって支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了された方にもお手紙や電話で状況を伺ったり継続的な付き合いが出来るように心掛けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で声を掛け、把握に努めている。言葉や表情などからその真意を推し測ったり、それとなく確認するようにしている意思疎通が困難な方には、ご家族や関係者から情報を得れようとしている。	日常の会話の中から希望・要望を汲み取り、思いが叶えられるよう努めている。特に食事の希望には、可能な限り添えるよう取り組んでおり、利用者から喜ばれている。買い物など、一人ひとりの希望にあわせた個別外出にも応えられるように努めている。意思を表せない人には、表情から推測したり、家族から情報収集し支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人自身の語りや、家族、知人などの訪問時などに把握につとめている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活・心理的面の視点や、出来ないことよりも出来ることに注目し、その人全体の把握につとめている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者が自分らしく暮らせるように本人や家族の要望を聴き、事業所外の関係者の意見を含めて課題となる事をスタッフ全員で話し、介護計画の作成に活かしている。	利用者、家族、職員から意見を聞き介護計画に反映させ、利用者が自分らしく暮らせるように支援している。介護計画は家族に説明し同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや利用者の状態変化は、個々のケア記録に記載し、職員間の情報共有を徹底している。個別記録を基に介護計画の見直し、評価を実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	認知症対応の居住環境や職員の機能を生かして自宅で暮らす認知症対応のディサービスを提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域での暮らしが続けるよう、運営推進会議に警察、町内会長、民生委員の方に出席していただき、交流連携をはかっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族が希望するかかりつけ医となっている。又受診や通院はご本人や家族の希望に応じて対応している。基本的に家族同行の受診となっている。が、不可能な時には職員が代行するようしており、同意をえている	希望するかかりつけ医を受診しており、家族が付き添っている。職員が同行する場合もあり、受診後は家族に結果を連絡している。往診医がかかりつけ医の場合は、月2回の訪問診療を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員と訪問診療時の看護師とは、相談できる状況で、看護師と提携医療機関との連携も密にとれる体制であり又看護師を配置しており利用者の健康管理や状態の変化に応じた支援が行うことができるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人に関する情報を医療機関に提供し、職員も見舞うようにしている。又家族とも情報交換しながら回復状況等を伺い速やかな退院支援に結びつけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に看取りに関するホーム方針を説明し、双方で確認を得、医療機関や訪問診療の説明をしている。重度化や終末期に関して家族の意向に応えられるよう対応している。	「看取りに関した指針」を作成し、入居時に説明を行い、家族の同意を得ている。終末期には看取りについて、家族と話し合いながら希望に応えられるように努め、看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の容態の急変や事故発生時の対応マニュアルを作成し、各ユニットに常備している。又所内研修もしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、利用者とともに避難訓練を行っている。地域の協力体制については、運営推進会議で協力を呼びかけている。	避難訓練を実施しており、運営推進会議の際に、消防署員の講習を取り入れるなど、工夫し取り組んでいる。町内会長を通し、地域住民に参加協力を呼びかけている。地域住民とのホットラインもあり、緊急時に駆け付けてくれる体制が構築されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会やミーティングの折に、職員の意識向上を図るとともに、日々の関わり方をリーダーが点検し、利用者の誇りやプライバシーをそこねない対応の徹底をはかっている。	年間計画を立て研修を行っており、プライバシー保護や一人ひとりの誇りを損ねないように取り組んでいる。言葉遣いや接遇には特に配慮しながら支援を行い、呼び名は「さん」付けで呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員側で決めたことを押し付けるようなことはせず、複数の選択しを提案して一人ひとりの利用者が自分で決める場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは持っているが、職員の側の都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に出来るだけ個別性のある支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着替えは、基本的に本人の意向で決めており、職員は見守りや支援が必要な時に手伝うようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは利用者と相談しながら決めている毎月行事食、誕生日は、利用者の希望を聞き手作りしている。片付けも職員と一緒にし食事を大切な活動にしている。	献立は利用者の希望に合わせ、職員が調理している。毎月の行事食や誕生会は利用者から希望を聞き、手作りしている。利用者と一緒に職員も食事をし、片付けも行い家庭のような生活感を大切にしながら支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し、職員が情報を共有している。食事内容を写真で残し、家族に便りて報告している。残食、摂取量を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を職員一人ひとりが把握し毎食後の歯磨きの声掛けを行い、力に応じて職員が見守ったり、介助をおこなったりしている。就寝前は、義歯の洗浄をおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間や習慣を把握し、トイレ誘導をすることでトイレでの排泄を促している。又排泄チェック表を使用し尿意のない利用者にも時間を見計らって誘導することにより、トイレで排泄を出来るよう支援している。	排泄チェック表から排泄パターンを把握し、状態の変化も見逃さないよう配慮し対応している。一人ひとりのタイミングに合わせ声がけや誘導を行い、常にトイレで排泄ができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材に繊維質が多い食材や乳製品を採りり入れている。レクレーション、や軽体操の運動を働きかけけることで自然排便が出来るようとりくんでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	大浴場は、月、水、金に個浴は入浴の希望があれば午前九時から午後七時の間で入浴支援をしている。体調により、足浴、マッサージも行っている。	基本、週3回を目安に入浴支援をしている。大浴場は月・水・金の午前中で、仲間と一緒に入る人もいる。個浴については利用者の希望時間に合わせ支援をしている。状態に合わせて、清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活のリズムを整えるように努めている。又一人ひとり体調や表情希望を考慮しゆっくり休憩とれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の服薬ファイルを作成し、処方箋のコピーを利用者毎に整理し、職員が内容を把握出来るようにしている。服薬時は飲み込むまで確認し、飲み忘れや誤薬防止の為に投薬チェック表を作成している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえるように、お願いできそうな仕事を頼み感謝の言葉を伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気、本人の気分や希望に応じて、季節を肌で感じてもらい、心身の活性につながるよう日常的に散歩、買い物ドライブ等に出掛けの行きつけの美容室や家族と一緒に墓参りなど外出する利用者様もいる。	利用者が季節を楽しめるよう、外出支援には特に力を入れている。楽しみの一つ、日帰り温泉への外出を継続している。一人ひとりの希望に合わせて、日常的な買い物・ドライブも取り入れている。家族の協力を得て、お墓参りや馴染みの美容院への支援もしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て少額のお金を持っているひともいる。家族により事務所で管理している。人でも、外出時に買い物した時は、自分で支払っていただけるようにお金を手渡すなどの工夫をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人などに電話しやすい雰囲気づくりや、職員からの声かけを行うと共に、会話が他の利用者に聞こえないよう電話での話す場所を工夫している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気持ち良く暮らしていただけるように清掃は徹底している。昼、夜を感じて頂けるようにしている。又それぞれの利用者の好みや馴染みの物などを生活スタイルに合わせ細やかな配慮している。	リビングは、みんなで囲めるように一つの大きなテーブルが用意され、コーナーには洗面台を設置している。見当識に配慮された手作りの日めくりカレンダーを掲示している。畳敷きの部屋と繋がるような造りで、ボランティアの踊りや演芸披露の舞台にもなる。行事など状況に合わせ、広い空間が確保できるよう配置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関、ホール、階段の踊り場に椅子やソファ、小さなテーブル等置き絵画や花などで装飾し居心地の良さに配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた日用品を持ち込んで頂き、利用者が不安なく生活できるようにしている。又写真、テレビ、仏壇なども持ち込み落ち着いて生活が出来るように配慮している。	洗面台・洋服タンスが設置してあり、一人ひとりがベッド・テレビ・仏壇・イス・テーブルなど、馴染みのものを持ち込み、来訪者や家族と一緒に団らんできるような広い造りになっている。通院対応など、遠くから来訪する家族の宿泊にも対応している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせて、手すりや浴室、トイレ、廊下などの居住環境が適しているかを見直し、安全確保と自立への配慮している。		

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0470900309		
法人名	有限会社サンヨー		
事業所名	グループホーム貞山みよりの家 ユニット:空		
所在地	多賀城市大代3丁目7-72		
自己評価作成日	平成31年1月30日	評価結果市町村受理日	平成31年2月6日

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	平成31年2月21日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の交流を大切に、思いやりと親切をモットーに、いつでも目配りや気配り、心配りを怠らず相手の話を聞き笑顔でサポート致します。又日本の歳時と折々の行事を大切にし利用者様が楽しんでいただけるよう支援しています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2004年12月に開所した「グループホーム貞山みよりの家」は、1階が「海」2階が「空」の2ユニットの事業所である。多賀城市大代地区の高台にあり、駐在所が隣接している。駐在所署員とは日常的にも交流があり、運営推進会議への出席や見守りなどの連携体制が構築されている。毎月第3月曜日に開催している「おおしろカフェ」には、地域から10人程の参加があり利用者と一緒にクリスマスリースなど、季節に合わせた作品作りなどお茶会をしており、利用者は楽しみにしている。行事では、恵方巻づくりなど利用者と職員が楽しみながら一緒に取り組んでいる。大きな1つのテーブルで職員も一緒に食事しており、後片付けも一緒に行っている。毎月発行される「貞山みよりの家便り」は、行事やボランティア活動が掲載され、事業所の日常の取り組みなど詳しく知ることができる。玄関ホールや居間には季節の飾り物や行事の写真が掲示されている。スタッフの心得にある「目配り・気配り・心配り」の様子が随所に見られる生活状況が確認できた。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果（事業所名 GH貞山みよりの家）「ユニット名 空」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝夕の送りにて、理念について話し合い、職員と管理者が理念について共有し、実践が理念に基づいたものになるように日常的に取り組んでいるかを問うています。	理念の「安全と安心で思いやりのある穏やかな生活を支える」は、朝夕の申し送りで確認し合っている。また、リビングに掲示しており、職員の名札の裏側に印刷し常に意識しながらケアに活かせるように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会に加入し、町内の行事にも積極的に参加し、月一で開催しているカフェにも気軽に行き来できるようにしている。ホーム便り、カフェ便りも地域の方々に配布している。	町内会に加入し、敬老会・新年会・総会に参加している。毎月1回「おおしろカフェ」を開催し、地域住民の参加がある。「ホーム便り」と「カフェ便り」を地域に配布し、事業所の様子を知らせている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者は、事業所での実践内容を踏まえた様々な研修、会合に関わりながら認知症ケアの啓発に努めている。事業者や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市の職員、地域包括職員、町内会長、民生委員、警察署、等が参加し年6回開催している、利用者やサービスの実際、評価の取り組み状況について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	年6回、市職員、地域包括職員、町内会長、民生委員、駐在所職員が参加し開催している。利用者の状況報告のほか、消防署職員による講習なども取り入れている。隣が駐在所で、常に連携できている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の職員の方が運営推進会議に出席していただいたり、ホーム便りを届けたり行き来する機会をつくり、サービスの質の向上に取り組んでいる。	市の職員が運営推進会議に参加しており、事業所の状況を随時報告している。また、生活保護申請についても連携している。市の窓口で「ホーム便り」を置いてもらい、情報発信に繋げている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者の権利擁護や身体拘束に関する勉強会を事業所の中で実施し、職員の共有認識をはかっている。ミーティングや日々の申し送り時等で、その日のケアを振り返り、自覚しない身体拘束が行われていないかを点検している。	身体拘束をしないケアについて、ケアを振り返りながら研修を重ねている。日常的に意識し、特に言葉遣いに配慮した支援に努め、朝夕の申し送りでも情報共有を図り、振り返っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティング等を実践し、高齢者虐待防止に関する理解浸透や遵守に向けた取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会やミーティング等を実践し、高齢者虐待防止に関する理解浸透や遵守に向けた取り組みを行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時において、利用料金や、事業所のケアに関する考え方や取り組み、起こりうるリスク等について丁寧に説明し、同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会に合わせてクリスマス会を開催し、意見や要望を聞き家族の意見や要望は、職員間で共有し、運営に活かしている。来訪時にも声をかけ、利用者の状況や家族について話し合っている。	家族会を開催し、意見・要望を聞いている。常に、家族が来訪した際も利用者の様子を報告し、情報共有に努めている。把握した意見・要望は、事業運営や利用者のケアに活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング、勉強会で意見を聞くようにしている。又日ごろからコミュニケーションを図るように心かけ問いかけたり、聞きだしたりするようにしている。	月1回、ミーティングで職員から意見・要望を聞いている。管理者は日常的にもコミュニケーションを図りながら、職員から要望を汲み取るよう努めている。介護に関する意見が多く出されており、ミーティングなどで検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、経営者に対し現場の状況について詳しく報告を行っている。又経営者の指示を仰ぎ良い環境作り職員が落ち着いて働けるよう環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日常的に学ぶことを推進している。ミーティングの時間を利用し勉強会を実施している。研修内容は、全職員が共有出来るように閲覧している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協議会の研修や地域の連携の会などに出席し、質の向上に励んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状態を把握するようつとめ、又利用者によっては、通所で利用してもらい本人の不安や要望を理解するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の求めているものを理解し、これまでの経緯についてゆっくりと話しを聞き次の段階の相談につなげている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人やご家族の思い、状況等を確認し、改善に向けた支援の提案、相談を繰り返す中で信頼関係を築きながら必要なサービスにつなげるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の様子や職員の思いをきめ細かく伝えることで、家族と職員の思いが徐々に重なり、本人を支えていくための協力関係が築けることが多くなっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人やご家族の思いや根本にある苦しみ、不安、喜びなどを知ること努め、暮らしの中で分かち合い、共に支え合える関係づくりに留意している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、友人等の訪問時は、ゆっくり過ごせるように環境作りをしている。昔から利用している美容院に行き続ける利用者や、お正月、お盆のお参り等利用者一人ひとりの生活習慣を尊重している。	利用者の以前の生活習慣が、継続できるよう支援している。馴染みの美容院に職員と一緒に出かける利用者もいる。家族が来訪しやすいよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話を聞いたり、相談に乗ったり、みんなで楽しく過ごす時間や気の合う同士で過ごせる場面づくりをするなど、利用者同士の関係がうまくいくように、職員が調整役となって支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了された方にもお手紙や電話で状況を伺ったり継続的な付き合いが出来るように心掛けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で声を掛け、把握に努めている。言葉や表情などからその真意を推し測ったり、それとなく確認するようにしている意思疎通が困難な方には、ご家族や関係者から情報を得れようにしている。	日常の会話の中から希望・要望を汲み取り、思いが叶えられるよう努めている。特に食事の希望には、可能な限り添えるよう取り組んでおり、利用者から喜ばれている。買い物など、一人ひとりの希望にあわせた個別外出にも応えられるように努めている。意思を表せない人には、表情から推測したり、家族から情報収集し支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人自身の語りや、家族、知人などの訪問時などに把握につとめている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活・心理的面の視点や、出来ないことよりも出来ることに注目し、その人全体の把握につとめている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者が自分らしく暮らせるように本人や家族の要望を聴き、事業所外の関係者の意見を含めて課題となる事をスタッフ全員で話し、介護計画の作成に活かしている。	利用者、家族、職員から意見を聞き介護計画に反映させ、利用者が自分らしく暮らせるように支援している。介護計画は家族に説明し同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや利用者の状態変化は、個々のケア記録に記載し、職員間の情報共有を徹底している。個別記録を基に介護計画の見直し、評価を実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	認知症対応の居住環境や職員の機能を生かして自宅で暮らす認知症対応のディサービスを提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域での暮らしが続けるよう、運営推進会議に警察、町内会長、民生委員の方に出席していただき、交流連携をはかっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族が希望するかかりつけ医となっている。又受診や通院はご本人や家族の希望に応じて対応している。基本的に家族同行の受診となっている。が、不可能な時には職員が代行するようしており、同意をえている	希望するかかりつけ医を受診しており、家族が付き添っている。職員が同行する場合もあり、受診後は家族に結果を連絡している。往診医がかかりつけ医の場合は、月2回の訪問診療を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員と訪問診療時の看護師とは、相談できる状況で、看護師と提携医療機関との連携も密にとれる体制であり又看護師を配置しており利用者の健康管理や状態の変化に応じた支援が行うことができるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人に関する情報を医療機関に提供し、職員も見舞うようにしている。又家族とも情報交換しながら回復状況等を伺い速やかな退院支援に結びつけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に看取りに関するホーム方針を説明し、双方で確認を得、医療機関や訪問診療の説明をしている。重度化や終末期に関して家族の意向に応えられるよう対応している。	「看取りに関する指針」を作成し、入居時に説明を行い、家族の同意を得ている。終末期には看取りについて、家族と話し合いながら希望に応えられるように努め、看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の容態の急変や事故発生時の対応マニュアルを作成し、各ユニットに常備している。又所内研修もしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、利用者とともに避難訓練を行っている。地域の協力体制については、運営推進会議で協力を呼びかけている。	避難訓練を実施しており、運営推進会議の際に、消防署員の講習を取り入れるなど、工夫し取り組んでいる。町内会長を通し、地域住民に参加協力を呼びかけている。地域住民とのホットラインもあり、緊急時に駆け付けてくれる体制が構築されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会やミーティングの折に、職員の意識向上を図るとともに、日々の関わり方をリーダーが点検し、利用者の誇りやプライバシーをそこねない対応の徹底をはかっている。	年間計画を立て研修を行っており、プライバシー保護や一人ひとりの誇りを損ねないように取り組んでいる。言葉遣いや接遇には特に配慮しながら支援を行い、呼び名は「さん」付けで呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員側で決めたことを押し付けるようなことはせず、複数の選択しを提案して一人ひとりの利用者が自分で決める場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは持っているが、職員の側の都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に出来るだけ個別性のある支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着替えは、基本的に本人の意向で決めており、職員は見守りや支援が必要な時に手伝うようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは利用者と相談しながら決めている 毎月行事食、誕生日は、利用者の希望を聞き手作りしている。片付けも職員と一緒にし食事を大切な活動にしている。	献立は利用者の希望に合わせ、職員が調理している。毎月の行事食や誕生会は利用者から希望を聞き、手作りしている。利用者と一緒に職員も食事をし、片付けも行い家庭のような生活感を大切にしながら支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し、職員が情報を共有している。食事内容を写真で残し、家族に便り「報告」している。残食、摂取量を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を職員一人ひとりが把握し毎食後の歯磨きの声掛けを行い、力に応じて職員が見守ったり、介助をおこなったりしている。就寝前は、義歯の洗浄をおこなっている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間や習慣を把握し、トイレ誘導をすることでトイレでの排泄を促している。又排泄チェック表を使用し尿意のない利用者にも時間を見計らって誘導することにより、トイレで排泄を出来るよう支援している。	排泄チェック表から排泄パターンを把握し、状態の変化も見逃さないよう配慮し対応している。一人ひとりのタイミングに合わせ声がけや誘導を行い、常にトイレで排泄ができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材に繊維質が多い食材や乳製品を採りり入れている。レクレーション、や軽体操の運動を働きかけけることで自然排便が出来るようとりくんでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	大浴場は、月、水、金に個浴は入浴の希望があれば午前九時から午後七時の間で入浴支援をしている。体調により、足浴、マッサージも行っている。	基本、週3回を目安に入浴支援をしている。大浴場は月・水・金の午前中で、仲間と一緒に入る人もいる。個浴については利用者の希望時間に合わせ支援をしている。状態に合わせ、清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活のリズムを整えるように努めている。又一人ひとり体調や表情希望を考慮しゆっくり休憩とれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の服薬ファイルを作成し、処方箋のコピーを利用者毎に整理し、職員が内容を把握出来るようにしている。服薬時は飲み込むまで確認し、飲み忘れや誤薬防止の為に投薬チェック表を作成している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらるように、お願いできそうな仕事を頼み感謝の言葉を伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気、本人の気分や希望に応じて、季節を肌で感じてもらい、心身の活性につながるよう日常的に散歩、買い物ドライブ等に出掛ける行きつけの美容室や家族と一緒にはお墓詣りなど外出する利用者様もいる。	利用者が季節を楽しめるよう、外出支援には特に力を入れている。楽しみの一つ、日帰り温泉への外出を継続している。一人ひとりの希望に合わせ、日常的な買い物・ドライブも取り入れている。家族の協力を得て、お墓参りや馴染みの美容院への支援もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て少額のお金を持っているひともある。家族により事務所で管理している。人でも、外出時に買い物した時は、自分で支払っていただけるようにお金を手渡すなどの工夫をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人などに電話しやすい雰囲気づくりや、職員からの声かけを行うと共に、会話が他の利用者に聞こえないよう電話での話す場所を工夫している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気持ち良く暮らしていただけるように清掃は徹底している。昼、夜を感じて頂けるようにしている。又それぞれの利用者の好みや馴染みの物などを生活スタイルに合わせ細やかな配慮している。	リビングは、みんなで囲めるように一つの大きなテーブルが用意され、コーナーには洗面台を設置している。見当識に配慮された手作りの日めくりカレンダーを掲示している。畳敷きの部屋と繋がるような造りで、ボランティアの踊りや演芸披露の舞台にもなる。行事など状況に合わせて、広い空間が確保できるよう配置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関、ホール、階段の踊り場に椅子やソファ、小さなテーブル等置き絵画や花などで装飾し居心地の良さに配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた日用品を持ち込んで頂き、利用者が不安なく生活できるようにしている。又写真、テレビ、仏壇なども持ち込み落ち着いて生活が出来るように配慮している。	洗面台・洋服タンスが設置してあり、一人ひとりがベッド・テレビ・仏壇・イス・テーブルなど、馴染みのものを持ち込み、来訪者や家族と一緒に団らんでできるような広い造りになっている。通院対応など、遠くから来訪する家族の宿泊にも対応している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせて、手すりや浴室、トイレ、廊下などの居住環境が適しているかを見直し、安全確保と自立への配慮している。		